

2016年11月21日

札チャレラジオ通信 第45回

岡野：はい、三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは。一月から始めました札チャレラジオ通信、今日のパーソナリティの札幌チャレンジの岡野です。よろしくお願いします。さて、この札チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある人がITでまざる、働く、拓き合う社会を作りたいとの思いで活動しているNPO法人札幌チャレンジがこの一年間毎週月曜日この時間に札幌チャレンジの活動内容をお伝えすることを目的にスタート致しましたが早いもので今日含めて残り6回となりました。また、今日は札チャレ以外のゲストの方の出演の最終回となります。最終回のゲストの方も東京よりお越しいただいております。ニフティ株式会社人事部の佐久間部長さんです。よろしくお願いします。

佐久間：よろしくお願いします。

岡野：ニフティの佐久間さんには昨年この札チャレラジオ通信の企画をご紹介しに東京にお伺いして、是非ご寄付お願いということで快くご承諾いただき、この札チャレラジオがスタートできたと考えております。本当にありがとうございます。

佐久間：いえいえ

岡野：今日はこのニフティの佐久間部長さんと30分間札チャレラジオ通信をお送りしていきたいと思います。ところでお聞きの皆さん、ニフティさんってどういう会社なのか、というのをちょっと気になるかなと思いますので、簡単に佐久間部長にニフティさんの会社の概要をちょっとお教えいただけますか。

佐久間：はい、ニフティと聞くと皆さんはたぶん老舗のISP企業だとふうにイメージされる方が多いと思うんですけども、会社ができたのは実はかなり前でして、1986年2月4日に創立をしたんですけれども、当時はインターネットはまだなくてパソコン通信で世の中で知られるようになりまして、そこからインターネットの接続サービスの方に移行していったということになります。今はそれだけじゃなくてクラウドサービスをさせていただきとかですね。あと、そういうちゃんとしたって言ったらあれですけど、もの以外でもデイリーポータブルゼットって聞いたことある方いらっしゃいますかね。

岡野：さー、どうだろ。

佐久間：すごくだらないことをいっぱいやってるようなコンテンツなんですけど、あれも実はニフティだったりとか、結構いろんなことをやってる会社です。

岡野：なるほど。そうですね、私達の年代ですとニフティさんというとパソコンのインターネットが出た時のプロバイダーさんっていうなね、そういうイメージが結構多いですけど、そうですね最近はそのってクラウドとかそういうお仕事ですね。なるほど。その中で佐久間さんは人事部ということでお仕事をされてます。人事部ですからニフティさんの全体の人の管理をされてるんですよ。主にどういう仕事されてらっしゃる。

佐久間：そうですね、私個人としては採用と教育以外をやってますが、人事部としてはそういうのも含めて人に関わることを全体的にやっています。今あの一実は 17 人もさっき数えてみたんですけど、いる実は大所帯でして、ただその中には医療スタッフのメンバーがいたりとか、あと臨床心理士、カウンセラーも含まれてたりとか、結構いろんな人が所属しているんで、結果そういうふうに見えちゃうんですけど。あと、在宅の障害者のメンバーも実は 2 人そん中にいます。

岡野：なるほどね。そうですね。障害者雇用ですとか在宅に関してはまたあとでいろいろお聞きしたいと思いますが、結構そういう障害者雇用っていう意味では先駆者の企業さんかなーと思ってます。例えばニフティさん全体で今社員の方って何名ぐらいいらっしゃる。

佐久間：社員はもう 700 名近くまでできましたね。

岡野：だから、そうなんです、人事部だけでも 17 名いらっしゃる。あと、びっくりしたんですけど医療スタッフさん。

佐久間：はい、保健士とか臨床心理士とかいたりとかして。

岡野：なるほど。よく企業さんなんかでしたら産業医っていう提携のね、お医者さんがいらっしゃるっていうのはよく聞くんですけども、人事部の中にそういうスタッフさんがいらっしゃるということなんです。わかりました、ありがとうございます。実は今日はニフティさん、こちらにゲストとしてお越しいただいたのは札幌チャレンジドとも結構以前から関わりあいがあるんですよ。それでちょっとこちらの方に是非ゲストということでお願いしてます。ちょっといろいろ調べてみますと、それこそ札幌チャレンジドの一番最初の事務局長の佐藤美由紀さんにいろいろ聞いたんですけどもね、2008 年頃遼々とその頃に札幌チャレンジドで就労継続 A 型で働いていた方がニフティさんに就職されたという、それからがなんかお付き合いのスタートじゃないかっていうことをお話されていたんですよ。

やっぱり、佐久間さんもそういうあれで、ニフティさんもそういう感じですよ。

佐久間：やっぱり、2008年ですか、当時障害者雇用をどうしていこうかと考えていた時期で、首都圏ではやはり優秀な人材を取れない状況でしたので、じゃ首都圏以外で優秀な人を取ろうよっと思った時に、札チャレさんの名前が浮かんで、というような流れですかね。

岡野：なるほどね。あのいろいろその札チャレの名前が浮かんでっていうか、ポッと浮かんだ訳じゃないと思うんで。

佐久間：はい。東京のNPO法人さんに相談させていただいて、そこから札チャレさんをご紹介いただいたという経緯だということには私も聞いています。

岡野：ほんとに嬉しい話で結構今こういって在宅ですとかの仕事をA型で仕事を受託しているんですけども、ほとんどの方がその聞いたと、札幌チャレンジドさんでこういう仕事ができないのとか、こういう方いらっやらないのっていうお話をいただいてそれが雇用結びついたり、仕事に結びついたりっていうのが現状なのかなっていうことで非常に嬉しく思ってますけど、ニフティさんもそうなんですね。実は手元にちょっと一枚資料っていうか、これあの一独立行政法人の高齢障害求職者ですね今正式にいうと、雇用支援機構の冊子の中に実はニフティさんで在宅の人を採用したと記事が実は出てましてね。これがちょうど時期を見ると2009年の雑誌なんで先程ご紹介したように2008年の一番最初に札幌チャレンジドからニフティさんへの就労した方々のその内容っていうのが記事になってるのかなーと思って改めてみました。こういうのもやっぱり記事になってたんだなーと思います。

佐久間：そうですね、はい。

岡野：お互いに佐久間さんも私も知らない時代のこういう記事だったんですけども。これで行くとニフティさんも本社では障害者の方を結構就労してるけど、やっぱり本社以外の地方、東京以外ですね、そこでの就労は札幌が初めてというようなちょっと記事になってますね。

佐久間：はい。当時はそうですね。実は本社での障害者のスタッフっていうのは現状2人ですね、実は、全体で23名いるんですけども、だから23引く2で21名の方が今障害者で在宅というスタイルで全国あちらこちらで就労している形ですね。

岡野：なるほど。21名全員が在宅で就労。

佐久間：そうですね。はい。

岡野：なるほどね。多分このスタートの時も札幌チャレンジドから2名ですかね。

佐久間：はい、最初はそうですね。

岡野：この方が在宅で就労という形になってますね。この記事を見ると今でもそうなんですけども、やっぱり地方での在宅の就労にあたってはやっぱり定期的に面談をしたりとか、そういう意味で地元で在宅の方をよく知っているこゆう支援施設と一緒に在宅就労と就労支援をするっていうかそれができたのかなっていう記事にもなってますけども、今でもそうなんですか、やっぱり在宅の方へは定期的な面接だとか教育だとか。

佐久間：少なくとも年に1回にはお会いして、評価したりとかしなくちゃいけないので。

岡野：なるほど。でも、評価っていうのは仕事上ですよ、別に面接だけじゃなくて、それ以外でやっぱり評価表みたいのが出てくるんですよ。

佐久間：はい。そうですね。職場の方でシートのやり取りをして、「今期は頑張ったね」とか「もうちょいだよ」ってみたいな話しつつ、あとは雇用契約っていうものもどうしてもあるのでその手続きをしたりとかでは

岡野：なるほど。そうですね。雇用ですからね。そういう契約、継続契約だとかそういうのがあってしょうね。札幌にもそういう意味では年に1回、2回ですかね。面接っていうか。

佐久間：今の話でいうと1回は必ず来ていて、あとはそれ以外にその新規で人材を採用しようかとかそういう時には随時面接に来たりとかさせてはいただけてますね。

岡野：そうですね。後半もまたそういう話やっぱりちょっと求人票っていうのも実は今手元にあるんですけども、絶えずこうやって在宅あるいは障害の方の求人というのもずっと継続されてるようですね。という話をしてたらちょっと前半が時間となりました。じゃ、佐久間さん、リクエスト曲ちょっとご紹介いただけますか。

佐久間：はい。中島みゆきの「時代」という曲を選ばせていただきました。

岡野：じゃ、中島みゆきの「時代」お聞きください。

岡野：はい。それでは札幌チャレンジ通信の後半に移って参りましょう。引き続き佐久間さんをお願いお聞きしていこうと思います。よろしくお願いします。

佐久間：よろしくお願いします。

岡野：前半でもお聞きしたんですけども、ニフティさんは結構こう障害者雇用っていうのを積極的に取り組んでらっしゃいます。その中でも雇用者を障害者を雇用する。そして、なおかつ在宅での雇用を積極的に取り組んでらっしゃいますけど、なぜそういう取り組みを始めたのかっていうのをちょっとお聞かせいただけますか。

佐久間：在宅というスタイルにやり始めた当初とくだんこだわりあった訳では多分無いと思うんですけども、やっぱり障害をお持ちの方っていうのはなかなか通勤するっていうのが辛いということだと思うんで、じゃ在宅でやればいいじゃんっていうただただ単純にそう考えたのが始まりだと思うんですけども。はい。

岡野：なるほど。じゃ、在宅就労の考え方だと思うんですけども、それ以前にじゃ、障害者をじゃ、どれほどどうしてそれっていっぱい雇用しようと思われたですかね。

佐久間：やはり最初は2008年とかの話がありましたけれども、法定雇用率にいてないね、困ったね、みたいなよくある話がありまして、でよく考えているうちにネットの会社じゃないかと、ネット使ってそういうことできないのっていうところから在宅というスタイルで障害者の方にメンバーとして加わっていただいて、ということやっていくうちにやっぱり雇用率充足というところから社会貢献とかそういうところがあって、もう今は戦力だよなっていうふうに考え方も変わってきているので、積極的にと言っただけだと嬉しい面はありますけれども、我々としてはそんなに特別なことをやっている意識は今やあまり無いですかね。

岡野：なるほどね。確かにそうですよね。実は札幌チャレンジも昨年から目標っていうか設定してますけど、「ITでまざる、働く、拓き合う」というのがまさにそうだと思うんですけども、世の中の企業で健常者とこの障害のあるチャレンジの人がごく当たり前のようにまざりあって働けるという企業をっていうかそういう社会を作りたいな—と考えているんですけども、まさにそれをもう地でいってるっていうのがニフティさんですよ、じゃ。

佐久間：普段自覚は無いですけども、そうおっしゃっていただくと非常に嬉しいです。

岡野：いや、でもお聞きするとそうですもんね。やっぱり障害者ということじゃなくて、やっぱり戦力っていう、これ非常にあの嬉しい言葉だなーと思いますね。恐らくそういう意味ではやっぱりそこで働いてるニフティさんで働いてるその障害がある方も働きがい、やりがいこういうのやっぱり見出してずーっと継続して働き続けているんじゃないのかなーと思いますけどね。あと、一般の方と仕事が違うのか同じなのか、こういうのもやっぱりちょっと興味があるんですけど。その辺はどうなんですか。

佐久間：やはり入口としてはまず業務フローであったりとかマニュアルがちゃんと整備されている所謂定常的な仕事からお願いするっていうことはありますけども、そこが慣れてくれば、どんどんそのステージから上がっていただいてって、って今はもう人事や経理でもあのメンバーが所属してまして、そこで専門的な領域もお仕事をしたりとかしてますので、そんなに障害者だから在宅だからということでは線を引いてるつもりは今やあまり無いですかね。

岡野：なるほどね。それは放送が入る前にもちょっとお聞きしたときに障害者の方の在宅っということだけじゃなくて、職員皆さん方が在宅っていう形での仕事がこういうのもスタートしているというお話でしたので。

佐久間：はい。そうですね、やっぱり在宅は最終的には勤務形態の一つだけだと捉えるべきだと思いますし、いろいろある仕事の中で在宅であることがベストな仕事があればそれを家やればいだけの話っていう風なことだと思うんですけども、まだまだ仕事がやっぱり事務所に来るっていう前提に立って仕組みが作られたりしてるのが多いので、それをやっぱり事務所外に持ち出して、仕事を簡単にしていけば、障害者の方だけじゃなくてみんなも簡単に仕事ができるようになっていくはずで、そうするとそっちに追われていた時間がだんだんなんだ他のことを使える時間になってくると思うので、そうするともっといろいろなものを考えたりとか創造的な仕事できるでしょっていう一応そういうこと考えてはいるんですけども、なかなか簡単ではない。

岡野：確かにそうですね。東京なんかですと例えば通勤時間一つ取っても1時間、2時間っていう時間かかっちゃいますからね。

佐久間：そうですね、はい。

岡野：その時間家で仕事できるとなれば当然それだけ効率良くなるでしょうしね。

佐久間：効率という面ではそうですね、はい。よくなりますね。

岡野：なるほど。あとですね在宅ってということで障害のある方の求人というのをずっとされていることで具体的に先ほど決まった仕事からスタートということなんですけども求人内容っていうんですかね、ちょっとこういう仕事で最初チャレンジしてもらいますよっていうのがあればちょっと教えていただけますか。

佐久間：やはり、パソコンというツールを使っていろいろなんていうんでしょうねエクセルデータを扱ったりとかデータ処理をするのが必須なので、最低限のパソコンのいわゆるスキルって言ったらいんですかね、ちょっと無いと最初厳しいかなっていうところは確かにありますけれども、そこさえクリアできていれば、いろいろ集計して欲しいとかあと間違いを見つけて欲しい、間違い探してみたいな感じですけども、そういうことをパソコン通じてやるってということで仕事はいっぱいあると思うので、そんなところですかね

岡野：なるほど。在宅でもできる仕事だとか事務所に来なきゃいけない仕事だとかこういうのはやっぱりはっきり切り分けされてるっていう感じなんじゃないかな。

佐久間：まずはですね。ただまだ不十分だと思いますけれども。

岡野：そういう意味では在宅でやるにはやっぱりパソコン、エクセルとかワードとかオフィス系のやっぱりソフトが使えるばいいっていう感じなんですかね

佐久間：そうですね。

岡野：なるほど。恐らくラジオをお聞きの中の皆さんの中でも「あ、そういうのだったらできるんじゃないか」という人もいらっしゃるんじゃないのかなーと思うんですけどね。そろそろ時間もちょっと迫ってきたんですけど、最後にニフティさんとしてね、是非PRというか今後在宅あるいは障害者の雇用に関してちょっとPRしていただけたらと思うんですけども。

佐久間：先ほどお話をさせていただいてますけれども、在宅勤務という事務所の外で仕事をやるということ通じて仕事を簡単にすると言いましたけれども、仕事を簡単していくことがやっぱり会社を強くすると思っていて、障害者の在宅の方々がそういうことを手伝ってくれていると思っているので、そういうふうな「手伝ってやろう」という手腕のある方は是非札チャレさんの方に志願していただけると嬉しいなと思ってます。

岡野：なるほど。ありがとうございます。今佐久間さんもお話あったけど、もしニフティさんにそういう仕事をやりたい方はニフティさんに直接連絡する方法でも結構ですし、もしあれでは場合によっては札幌チャレンジドにお問い合わせいただいて、それからニフティさんに紹介するという方法でもいいわけですよ。

佐久間：後者ですと我々が札幌まで行って面接をさせていただくんですけれども、前者だと「来てください」ってなっちゃうかもしれないので。

岡野：なるほど。東京に行かなきゃいけないってなっちゃう。そうするとどちらかというと後者で札幌チャレンジドといい。

佐久間：そうですね。その方がいいと思います。

岡野：一度お話をさせていただいた方が札幌で面接を受けられるという流れができるのかもしれないですね。

岡野：ありがとうございます。はい。実際今日はニフティ株式会社の人事部の佐久間さんにお越しいただきました。札幌チャレンジドの卒業生っていうか札幌チャレンジドからニフティさんに行って就労されてる方も3名、4名ぐらいいらっしゃるんですか。

佐久間：今は4人いますね

岡野：4名ですね。はい。いらっしゃいますね。はい。是非先輩のあとを追いたいっていう方もまたこれからも出てくるかと思います。また、放送をお聞きの札幌市内、あるいはそれ以外のスマホでお聞きの方でも在宅で是非就労働きたい方がいらっしゃいましたら是非お問い合わせいただきければなと思います。そろそろ時間となりました札幌チャレンジドの就労グループでは働くチャレンジドという方を紹介、あー募集しております。また、ニフティさんでもこうやって在宅で働きたい方っていうのを絶えず募集しております。障害特性と能力によっては在宅就労充分可能かかと思います。是非興味のある方はご連絡をいただければと思います。連絡は電話またはメールでお願いいたします。札幌チャレンジドは電話は011-769-0843、011-769-0843です。じゃ、以上を持ちまして今日ニフティの人事部佐久間部長さんとラジ、札チャレラジオ通信お送りしました。以上で終わりたいと思います。さようなら。